

令和7年度 第1回 安倍川水系流域委員会 【最近の河川事業を取り巻く話題】

令和8年3月3日

国土交通省 中部地方整備局
静岡河川事務所

目次

1. 『令和7年9月の台風第15号による大雨』 出水概要	2
2. 安倍川水系流域治水プロジェクト2.0	5
3. 内外水統合型水害リスクマップ	9
4. 巨石付き盛土砂州による河岸防護効果の検証	13
5. 安倍川緑地（田町地区）における社会実験について	22

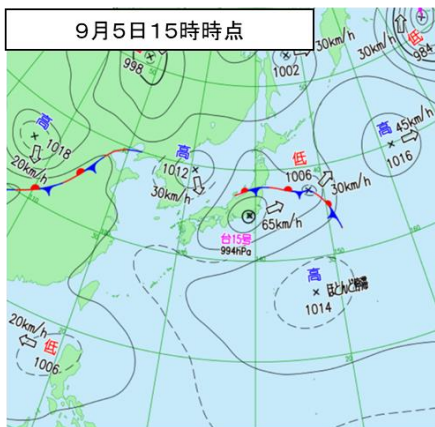
1. 『令和7年9月の台風第15号による大雨』出水概要

(1) 令和7年9月4日～9月5日の大雨による気象概況など

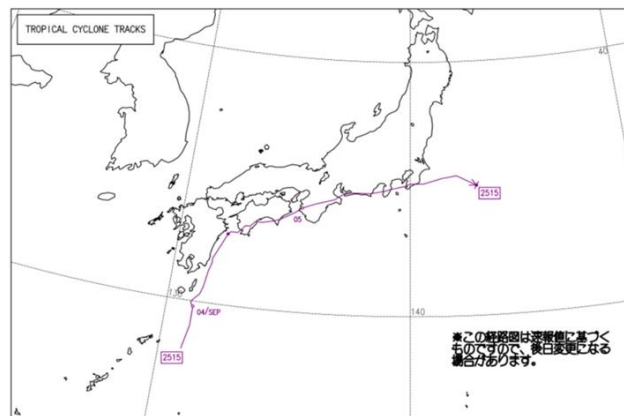
令和7年9月4日に発生した台風第15号は奄美大島の東で発生し、発達しながら北上した。4日の夜に九州に接近したあと、5日午前9時頃には和歌山県北部に再上陸し、その後、西日本から東日本へ列島を横断、静岡県や神奈川県で線状降水帯が発生したり、静岡雨量観測所にて9月4日0時から9月5日24時までの総降水量218mmを記録した。また、1時間雨量は9月5日14時に静岡雨量観測所にて80mmを記録した。

静岡県内ほぼ全域に土砂災害警戒情報が発表され、また、静岡市をはじめ多くの市町では避難指示を発令した。また、県内では竜巻も発生し、各地に大雨や突風、停電などの被害をもたらしたが、台風は、9月5日午後9時に日本の東で温帯低気圧に変わった。

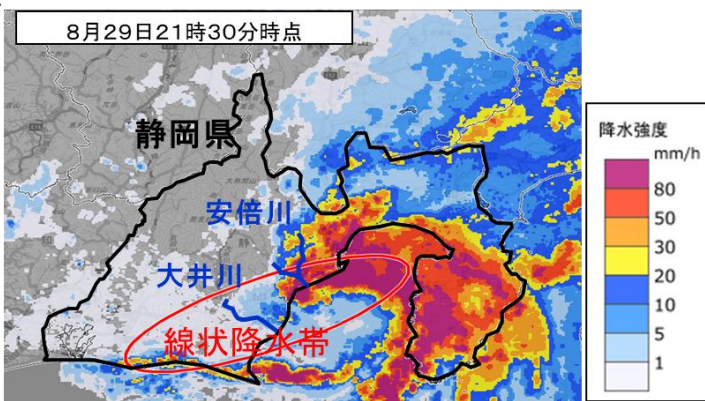
天気図
(気象庁HP)



台風経路図
(気象庁HP)

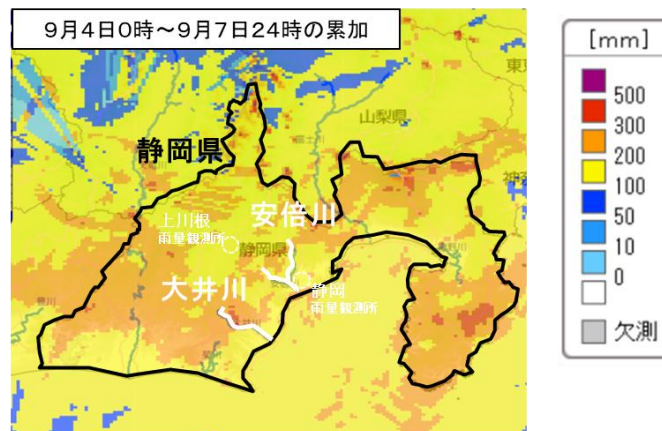


気象庁レーダ
雨量



※速報値のため
変更される場合
があります。

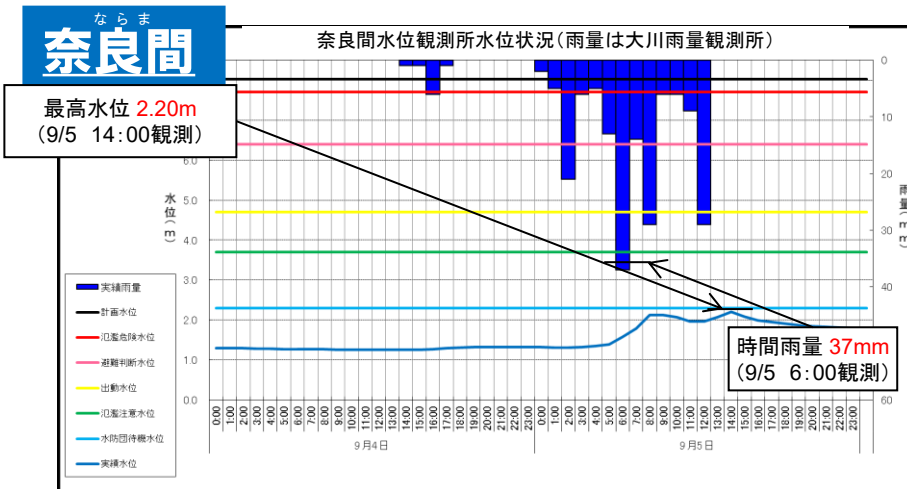
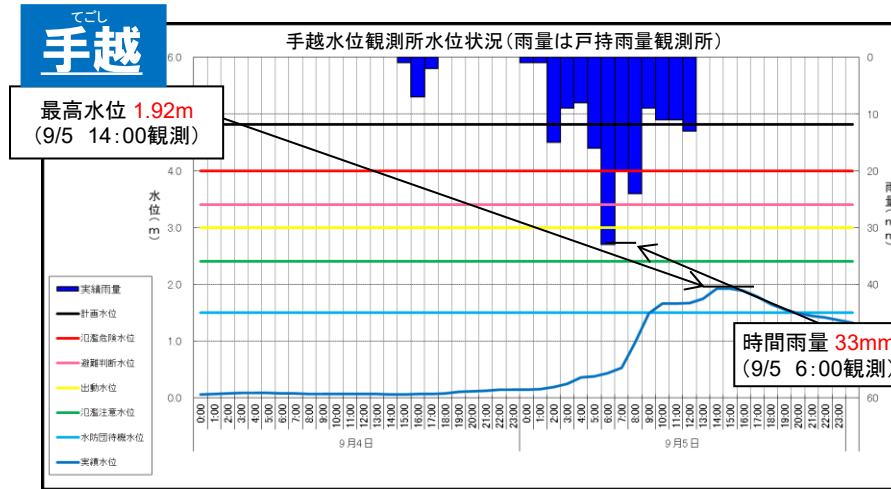
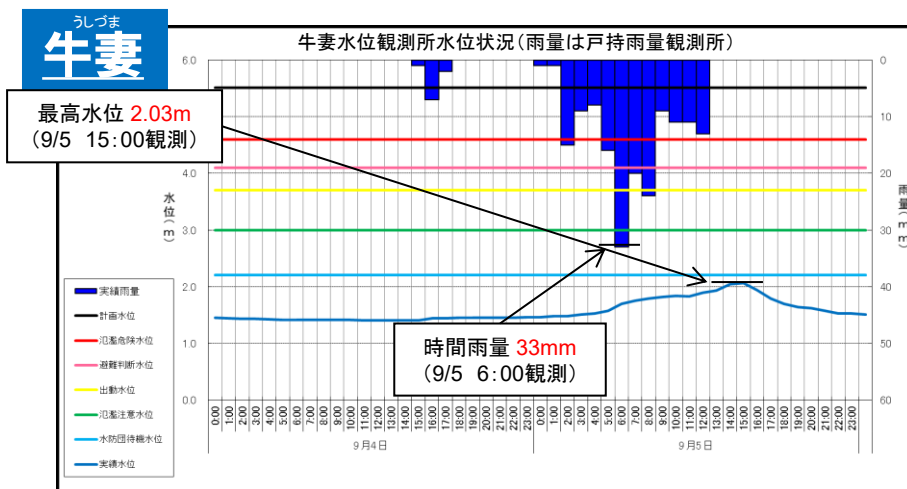
Cバンドレーダ
累加雨量



(2) 安倍川の水位観測所 水位状況

手越水位観測所では水防団待機水位を超え9月5日14時にピーク水位1.92mを観測。また、牛妻水位観測所及び奈良間水位観測所では水防団待機水位未満に留まった。

9/4 0時 ~ 9/5 24時の各水位観測所における水位の変遷は以下の通り



<各水位観測所 ピーク時水位の整理>

河川名	観測所名	今回 最高水位	水防団 待機水位	氾濫 注意水位	出動水位	避難判断 水位	氾濫危険 水位	計画 高水位
安倍川	牛妻	2.03	2.20	3.00	3.70	4.10	4.60	5.51
	手越	1.92	1.50	2.40	3.00	3.40	4.00	4.82
藁科川	奈良間	2.20	2.30	3.70	4.70	6.40	7.70	8.02

※速報値のため変更される場合があります。

※時刻水位・雨量データより作成

2. 安倍川水系流域治水プロジェクト2.0

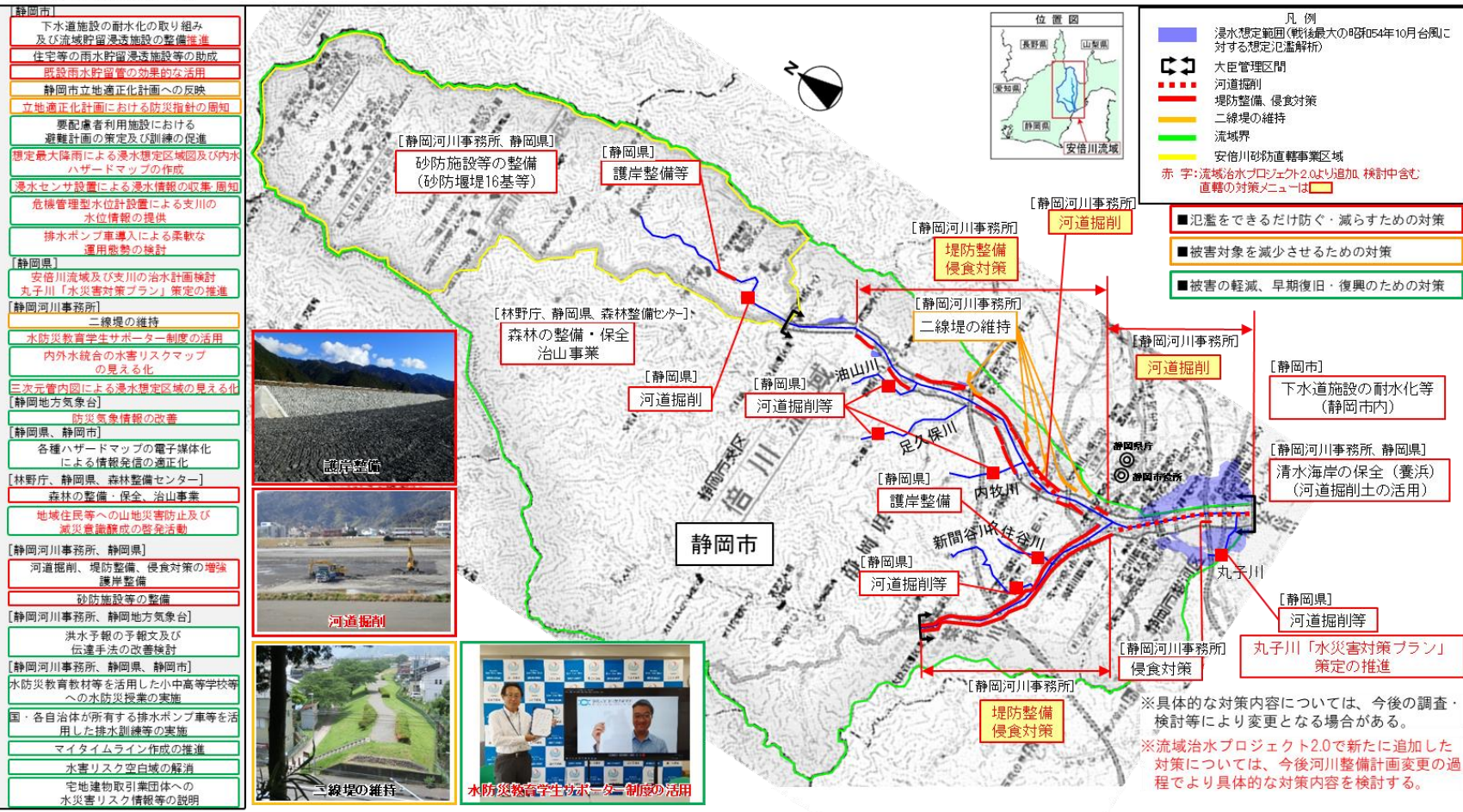
(1) 安倍川水系流域治水プロジェクト2.0

- 気候変動の影響を踏まえて、流域治水の取組の加速化・深化を図るため、全国の1級水系において既往の「流域治水プロジェクト」を『流域治水プロジェクト2.0』へ更新。（令和6年度時点）

安倍川水系流域治水プロジェクト2.0【位置図】

～先人の知恵に学び備える、静岡市街地を守る流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、安倍川水系においても、事前防災対策を推進することとし、**更に気候変動（2℃上昇）下でも目標とする治水安全度を維持するため、観測史上最大流量を記録した昭和54年10月洪水に対して、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水を安全に流下させることを目指す。**
- 下流部の氾濫域は、県庁所在地である静岡市街地として発展している反面、流域の地質が脆弱で、扇状地形のため安倍川が氾濫すれば土砂混じりの氾濫流が早い速度で拡散するなど水害リスクが高い地域であることから、河道掘削、堤防整備、侵食対策の**増強**、砂防施設の整備、多自然かわづくり、二線堤の維持、水防災教育の推進などを実施する。



- 静岡市
 - 下水道施設の耐水化の取り組み及び流域貯留浸透施設の整備推進
 - 住宅等の雨水貯留浸透施設等の助成
 - 既設雨水貯留管の効果的な活用
 - 静岡市立地適正化計画への反映
 - 立地適正化計画における防災指針の周知
- 要配慮者利用施設における避難計画の策定及び訓練の促進
- 想定最大降雨による浸水想定区域図及び内水ハザードマップの作成
- 浸水センサ設置による浸水情報の収集・周知
- 危機管理型水位計設置による支川の水位情報の提供
- 排水ポンプ車導入による柔軟な運用態勢の検討
- 静岡県
 - 安倍川流域及び支川の治水計画検討
 - 丸子川「水災害対策プラン」策定の推進
- 静岡河川事務所
 - 二線堤の維持
 - 水防災教育学生サポーター制度の活用
 - 内外水統合の水害リスクマップの見える化
- 三次元管内図による浸水想定区域の見える化（静岡地方気象台）
- 防災気象情報の改善
- 静岡県、静岡市
 - 各種ハザードマップの電子媒体化による情報発信の適正化
- 林野庁、静岡県、森林整備センター
 - 森林の整備・保全、治山事業
- 地域住民等への山地災害防止及び減災意識醸成の啓発活動
- 静岡河川事務所、静岡県
 - 河道掘削、堤防整備、侵食対策の増強
 - 護岸整備
 - 砂防施設等の整備
- 静岡河川事務所、静岡地方気象台
 - 洪水予報の予報文及び伝達手法の改善検討
- 静岡河川事務所、静岡県、静岡市
 - 水防災教育教材等を活用した小中高등학교等への水防災授業の実施
- 国・各自治体が所有する排水ポンプ車等を活用した排水訓練等の実施
- マイタイムライン作成の推進
- 水害リスク空白域の解消
- 宅地建物取引業団体への水害リスク情報等の説明



(1) 安倍川水系流域治水プロジェクト2.0

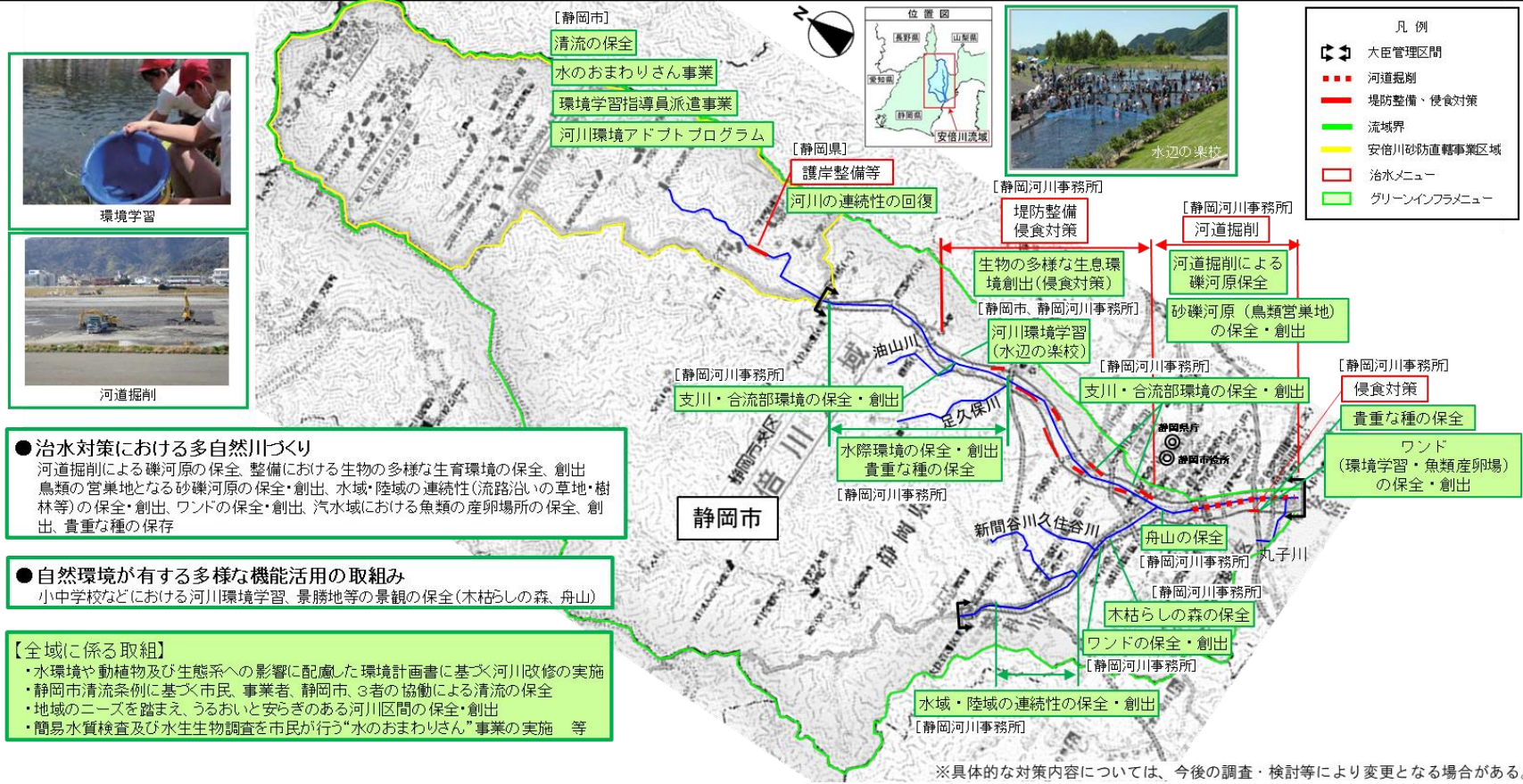
- 気候変動の影響を踏まえて、流域治水の取組の加速化・深化を図るため、全国の1級水系において既往の「流域治水プロジェクト」を『流域治水プロジェクト2.0』へ更新。(令和6年度時点)

安倍川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～先人の知恵に学び備える、静岡市街地を守る流域治水対策～

●グリーンインフラの取り組み『河床変動の激しい砂礫河原からなる多様な生息環境の保全・創出』

- 安倍川では常に攪乱される砂礫地に依存する動植物が多く生育・生息する等、急流河川で河床変動の激しい河道特性を反映した特有の自然環境がみられます。一方、河口部やワンド等の静水域を有する良好な自然環境、本川砂礫河床とは異なる支川合流部の特徴的な自然環境（河畔林に囲われた環境等）が存在しています。また、国管理区間では、河川の連続性が分断されるような工作物はなく、連続性が確保されています。
- 急流河川の特徴を活かした水際・砂礫河原環境のため、今後、概ね20年間で、静水域等の特徴的な環境や河川環境学習の場を保全・創出するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



(2) 主な取り組みについて

□ 水防災学生サポーター制度の活用

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 静岡県立駿河総合高等学校の2年生を対象に、静岡大学と静岡河川事務所が連携して作成した教材を元に大学生が作成したスライド等を使用し、水防災授業を行っている。授業では安倍川沿川の水災害リスクと地域条件の情報をもとに、水災害発生時の地域ごとの課題や解決策を考えている。
- 水防教育を通じて、子供たちの水防災意識の形成と主体的に避難行動をとれる人間を育成し、地域全体で水防災意識をもつことを目指す。



授業の様子

テキストは駿河総合高校の先生や静岡大学の教授・学生の意見を取り入れて作成されています。



令和8年度以降の取組

- 静岡大学や要望のあった学校側と調整し、水災害学生サポーター制度を活用した授業の普及により、地域の水防災意識の向上を図ります。

※水防災教育学生サポーター制度：水防災教育授業に、教員補助や生徒への助言等のサポーターとして、学生を派遣することにより、水防災教育の導入にあたっての教員負担を軽減し、普及・拡充を促進することを目的とし、令和3年9月に創設。

□ 二線堤の維持管理

被害対象を減少させるための対策

- 二線堤は、氾濫流の下流域への拡散を防止し被害を軽減させる機能を有しているため、巡視などを通じ適切な維持管理に努めている。
- 二線堤に設置された13箇所の陸閘については、緊急時に備え確実に閉鎖できるよう、年1回静岡市と協同して操作訓練を行っている。



巡視による二線堤の点検(安西堤)

10月15日深夜から16日未明、10月16日深夜から10月17日未明にかけて、道路の通行止めを行い、4つの陸閘（井宮陸閘、秋山陸閘、籠上陸閘、松富陸閘）の陸閘操作訓練を実施



操作訓練の様子(井宮陸閘)



操作訓練の様子(籠上陸閘)

令和8年度以降の取組

引き続き、二線堤の機能を維持できるよう点検・訓練を実施して参ります。

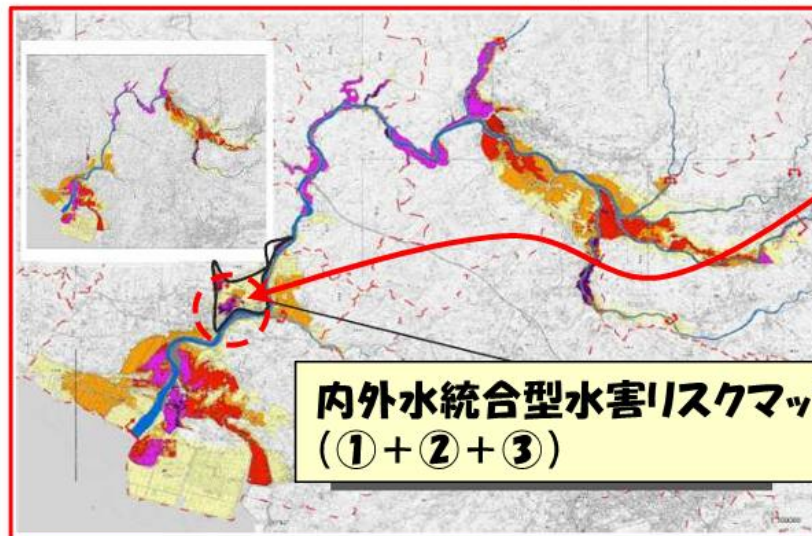
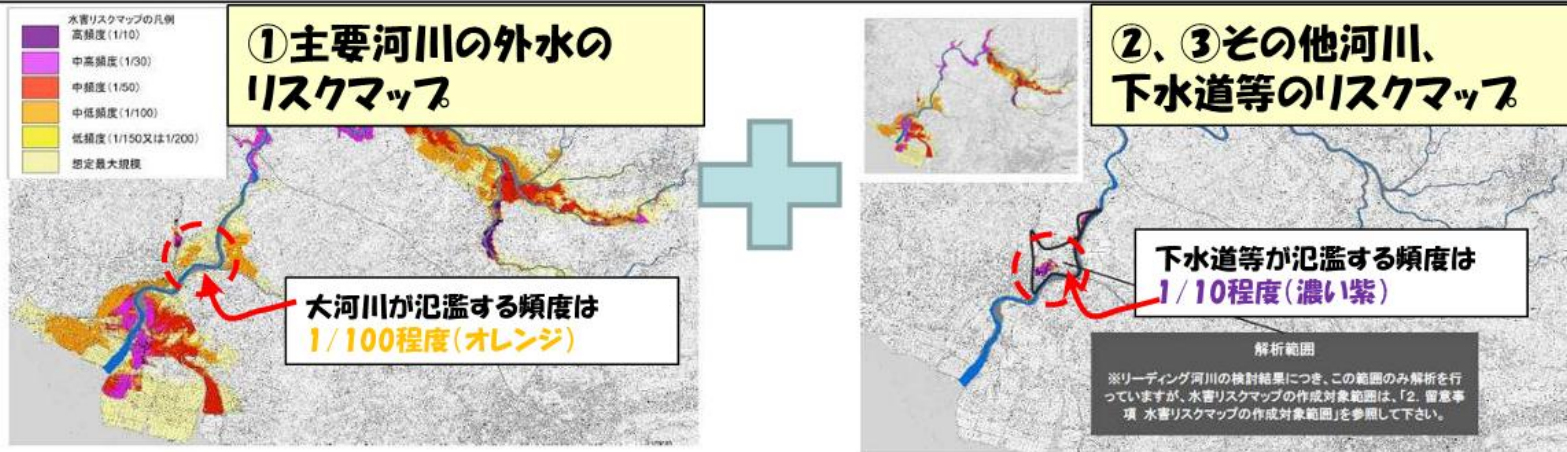
3. 内外水統合型水害リスクマップ

(1) 内外水統合型水害リスクマップ

「内外水統合型」の水害リスクマップとは

対象とする河川・下水道毎に最も氾濫時に被害が生じやすい雨を与えてそれぞれの洪水リスクマップを作成し、更に全てのリスクマップを重ねたリスクマップ(以下の①～③のリスクを全て重ねたリスクマップ)のことをいいます。

①主要河川(洪水予報河川、水位周知河川等)、②その他河川、③下水道等(準用河川含む)



外水単独では1/100の頻度の浸水リスクとなるが内水を重ねると1/10の頻度で浸水するリスクがあることが表現できる。

避難行動計画、防災街づくり(立地適正化計画 防災指針)など流域治水検討のリスクコミュニケーションツールになる

出典:国土交通省WEBサイト(流域治水プロジェクト水害リスクマップについて)に加筆
https://www.mlit.go.jp/river/kasen/ryuiki_pro/pdf/risk_map.pdf

(1) 内外水統合型水害リスクマップ

「内外水統合型」の水害リスクマップとは

水害リスクマップは下記のように活用可能です。

- ✓ リスクの低いエリアへの誘導・住まい方の工夫：立地適正化計画 防災指針、誘導、移転促進、不動産取引時の水害リスク情報の提供
- ✓ 避難体制の強化：適切な避難誘導
- ✓ 経済被害の最小化：工場や建築物の浸水対策、BCPの策定

流域治水を推進するためには、あらゆる関係者が協働することが重要であり、水害リスクマップはその合意形成、意思決定のための**リスクコミュニケーションツール**となります。

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水貯留機能の拡大 集水域
 [国・市・企業・住民]
 雨水貯留浸透施設の整備、
 ため池等の治水利用

流水の貯留

[国・県・市・利水者] 河川区域
 治水ダムの建設・再生、
 利水ダム等において貯留水を
 事前に放流し洪水調節に活用

[国・県・市]
 土地利用と一体となった遊水
 機能の向上

持続可能な河道の流下能力の維持・向上

[国・県・市]
 河床掘削、引堤、砂防堰堤、
 雨水排水施設等の整備

氾濫水を減らす

[国・県]
 「粘り強い堤防」を目指した
 堤防強化等

② 被害対象を減少させるための対策

**リスクの低いエリアへ誘導/
 住まい方の工夫**
 [国・市・企業・住民]
 土地利用規制、誘導、移転促進、
 不動産取引時の水害リスク情報提供、
 金融による誘導の検討

氾濫域
浸水範囲を減らす
 [国・県・市]
 二線堤の整備、
 自然堤防の保全



③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

土地のリスク情報の充実 氾濫域
 [国・県]
 水害リスク情報の空白地帯解消、
 多段型水害リスク情報を発信

避難体制を強化する
 [国・県・市]
 長期予測の技術開発、
 リアルタイム浸水・決壊把握

経済被害の最小化
 [企業・住民]
 工場や建築物の浸水対策、
 BCPの策定

住まい方の工夫
 [企業・住民]
 不動産取引時の水害リスク情報
 提供、金融商品を通じた浸水対
 策の促進

被災自治体の支援体制充実
 [国・企業]
 官民連携によるTEC-FORCEの
 体制強化

氾濫水を早く排除する
 [国・県・市等]
 排水門等の整備、排水強化

出典：「流域治水」の基本的な考え方～気候変動を踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う総合かつ多層的な水災害対策～、国土交通省水管理・国土保全局

4. 巨石付き盛土砂州による河岸防護効果の検証

(1) 河岸防護施設の整備

工法	効果	想定される影響
根固工	洗掘防止効果	下流端部の洗掘・侵食を助長
水制工	水はね効果 河岸防護効果	対岸への影響
巨石付き盛土砂州	水はね効果(やわらかに流れを制御) 河岸防護効果	変形を許容した構造であるため、洪水後の変化を継続的にモニタリング

水制工

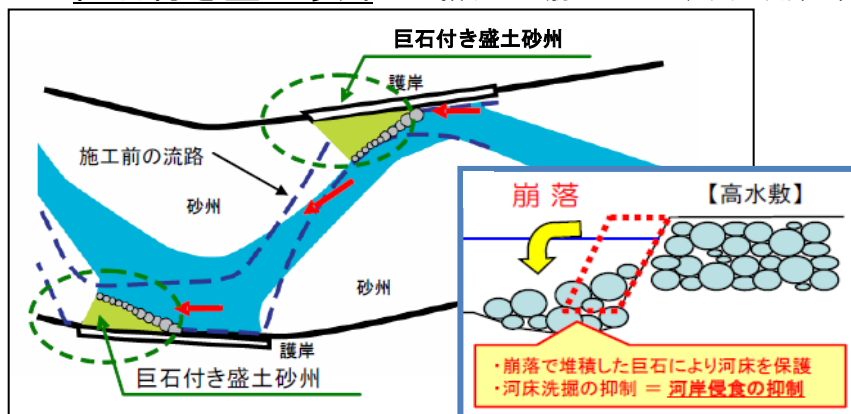
左岸6.75k付近



根固工



巨石付き盛土砂州：目指すみお筋となるよう、砂州頂部を巨石により防護した盛土を設置し、主流を滑らかに河道中央に誘導する対策工



出典：治水と環境の調和した新たな河岸防護技術の手引き



安倍川左岸8k（試験施工）



安倍川右岸8.5k（試験施工）

(2) モニタリング結果 (洪水の生起状況、巨石付き盛土砂州の整備状況)

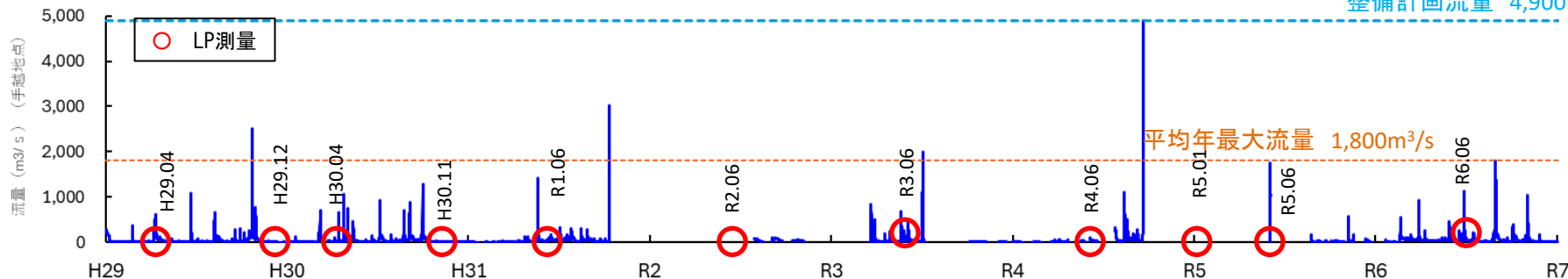
- 巨石付き盛土砂州の効果についてモニタリングを開始した平成29年以降では、平均年最大流量(1,800m³/s)程度以下の小規模洪水、3,000m³/s程度の中規模洪水である令和元年10月洪水、令和4年9月の大規模洪水(推定約4,900m³/s)が発生している。
- 巨石付き盛土砂州は左岸8.0k地点、右岸8.5k地点の2地点に整備した。
- 左岸8.0kは、平成28年度に先端部のみ施工されており、その後、令和4年9月の大規模洪水により先端部が一部侵食している。
- 右岸8.5kは、平成29年度に先端部が施工され、その後、令和3年度に巨石付き盛土砂州の中央部が施工された。

洪水の生起状況

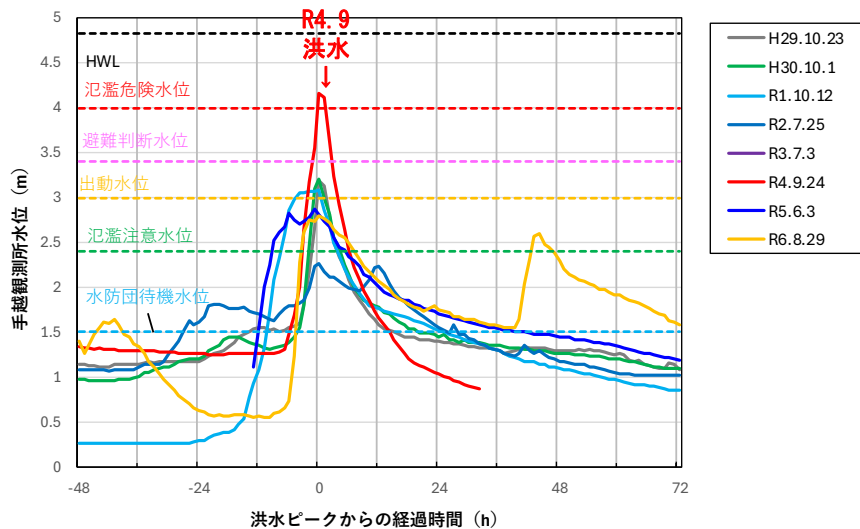
モニタリング開始 (H29年度) 以降の出水状況

R4.9洪水
(推定)

整備計画流量 4,900m³/s



各年最大洪水波形 (手越地点水位)



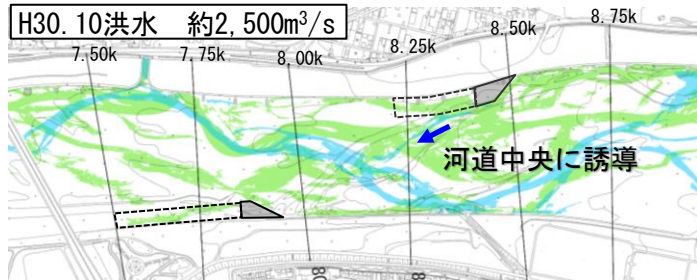
巨石付き盛土砂州の整備状況



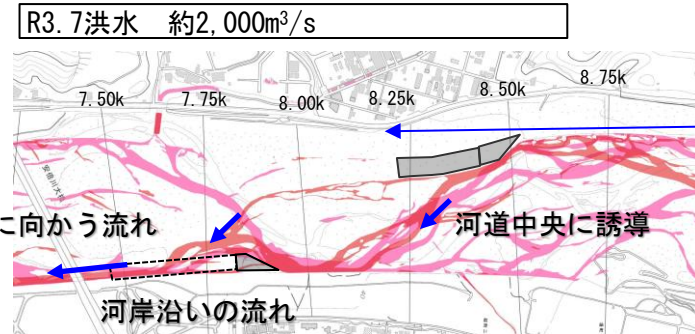
航空写真:R3.6 オルソ画像

(2) モニタリング結果(経年変化)

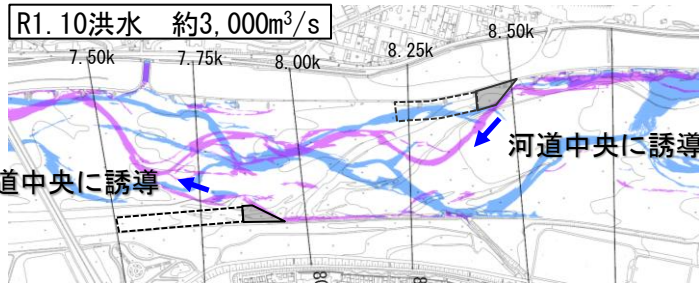
○ **【効果】**: 滞筋が滑らかに河道中央に誘導されており、河岸防護効果を確認できた。左岸8.0kの巨石付き盛土砂州は中央部が未施工あり、河岸に向かう流れや河岸沿いの流れが生じている場合がみられる。



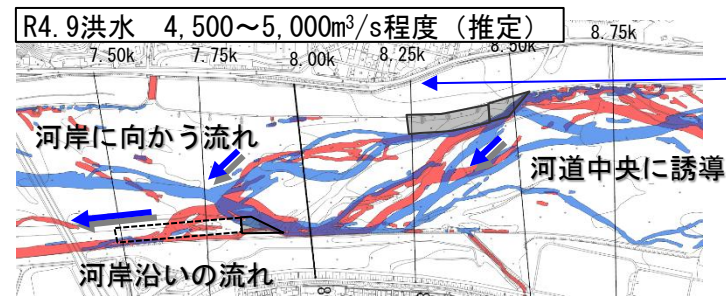
H30.04
H30.11



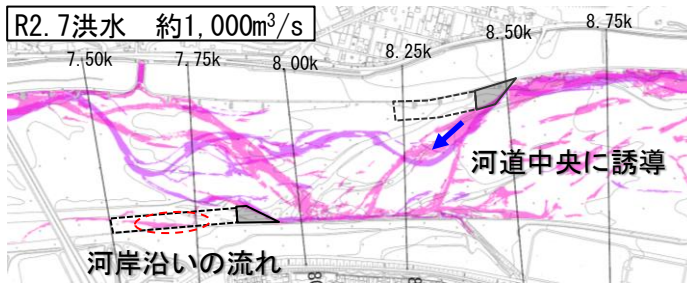
R03.06
R04.06



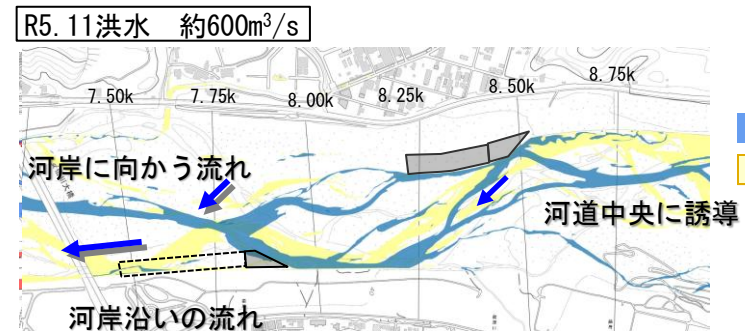
R01.06
R02.06



R04.06
R05.06



R02.06
R03.06



R05.06
R06.06

--- : 未施工(先端部) ▽ : 施工済(先端部)

--- : 未施工(中央部) ▽ : 施工済(中央部)

(2) モニタリング結果(経年変化) 安倍川右岸8.5k

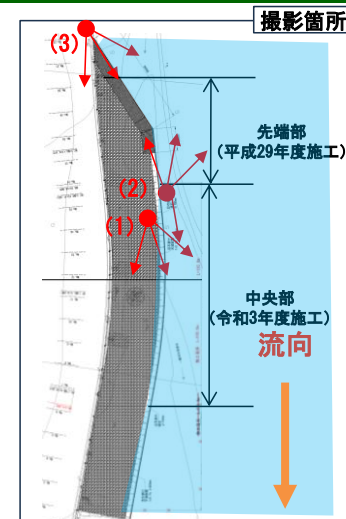
- **【効果】**: 中央部の一部が崩れ巨石が河床と一体となることで、砂州前面の洗掘を抑え、河岸防護に寄与している。
- **【機能の維持】**: 先端部には変状が生じておらず、巨石付き盛土砂州の機能(水はね機能)が維持されている。一方で、河岸洗掘により巨石の流出及び基礎の露出が確認された

(1) 砂州下流側 (下流を望む)

(2) 砂州下流側 (上流を望む)

(3) 砂州上流側 (下流を望む)

平成30年10月洪水直後	<p>先端部しか施工されてないため、施工後の洪水を経験してない状態では、砂州上流の河岸への回り込が見られる。</p> <p>H30.10撮影</p>	<p>砂州先端部から、巨石沿いの流れ(滞筋の形成)が見られる。</p> <p>H30.10撮影</p> <p>巨石付き盛土砂州の冠水の形跡は見られない。</p>	<p>河道中央方向への流れが確認できる。</p> <p>H30.10撮影</p>
令和4年9月洪水後	<p>中央部に沿った流路がみられる。</p> <p>R5.10撮影</p>	<p>巨石の流出はみられない。</p> <p>R5.10撮影</p>	<p>R5.10撮影</p>
現在	<p>中央部前面が洗掘していることから、中央部に沿った流路が形成されたと考える。</p> <p>R8.2撮影</p>	<p>河岸洗掘により河床(岩)が露出している</p> <p>R8.2撮影</p>	<p>河岸洗掘により巨石が流出し、基礎が露出している</p> <p>R8.2撮影</p>



(1) 砂州下流側 (下流を望む)



(3) 砂州上流側 (下流を望む)



(2) モニタリング結果(経年変化) 安倍川左岸8.0k

○【機能の維持】: 令和4年9月洪水により先端部が一部侵食されており、先端部の侵食が進行した場合に、水はね機能の低下が懸念される。

(1) 砂州下流側 (下流を望む)

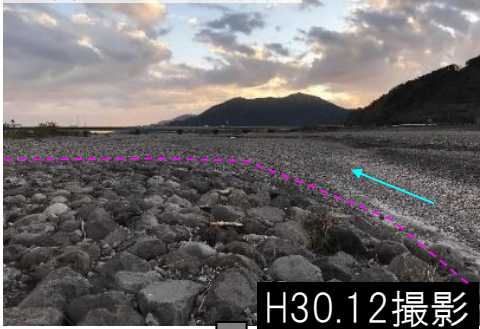
(2) 砂州下流側 (上流を望む)

(3) 砂州上流側 (下流を望む)

撮影箇所

平成30年10月洪水後

先端部下流側は形状維持。



H30.12撮影

冠水の痕跡は残っているが、巨石等の流出はみられない。

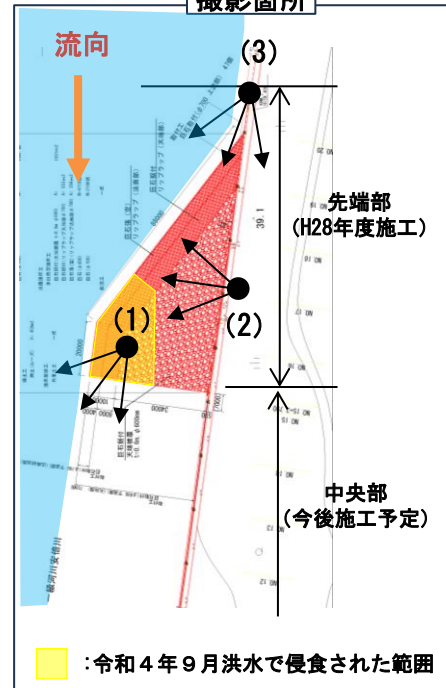


H30.12撮影

前面に砂礫の堆積が見られる。



H30.12撮影



令和4年9月洪水後

先端部下流側が侵食。



R5.10撮影

先端部下流側が侵食。



R5.10撮影

先端部上流側は形状を維持。



R5.10撮影

現在

先端部下流側が侵食。

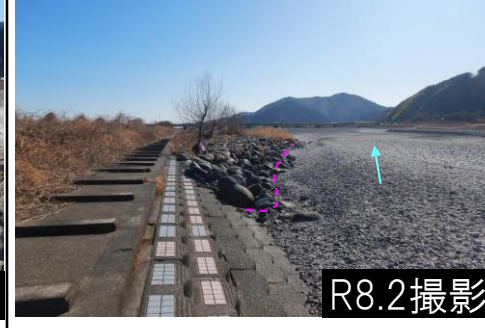


R8.2撮影



R8.2撮影

先端部上流側は形状を維持。



R8.2撮影

先端部の侵食箇所

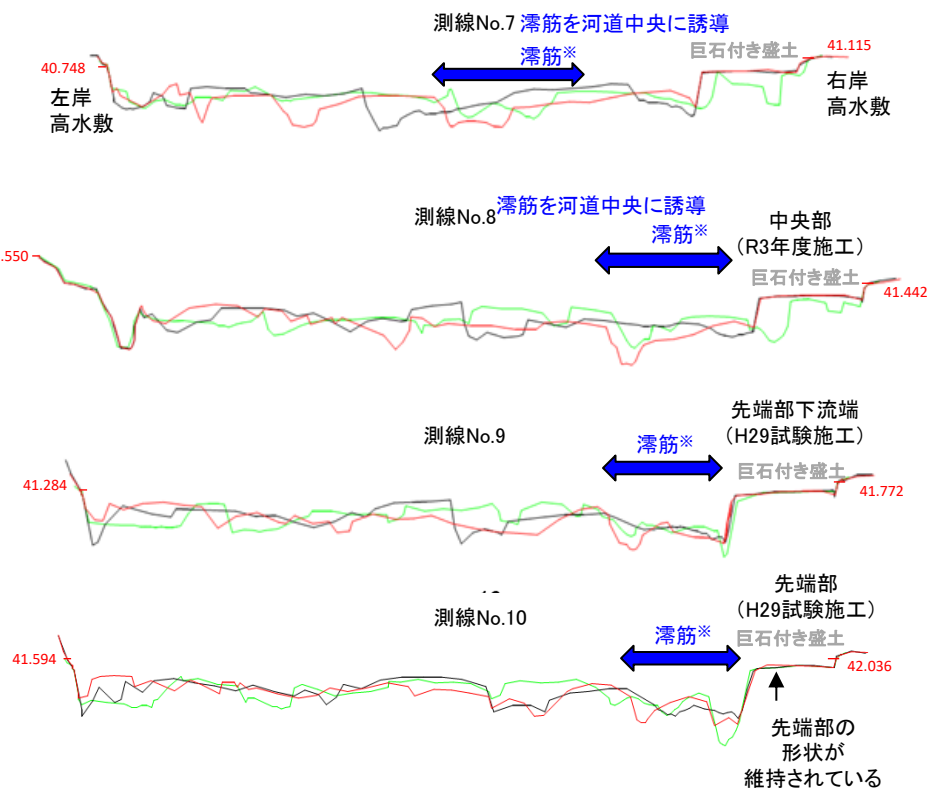
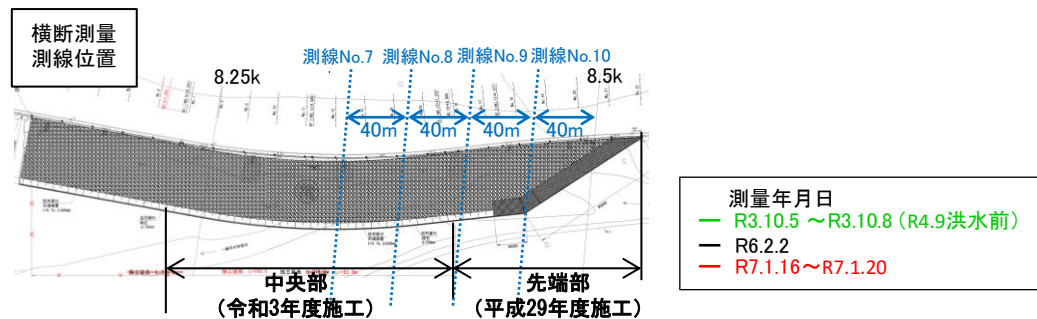
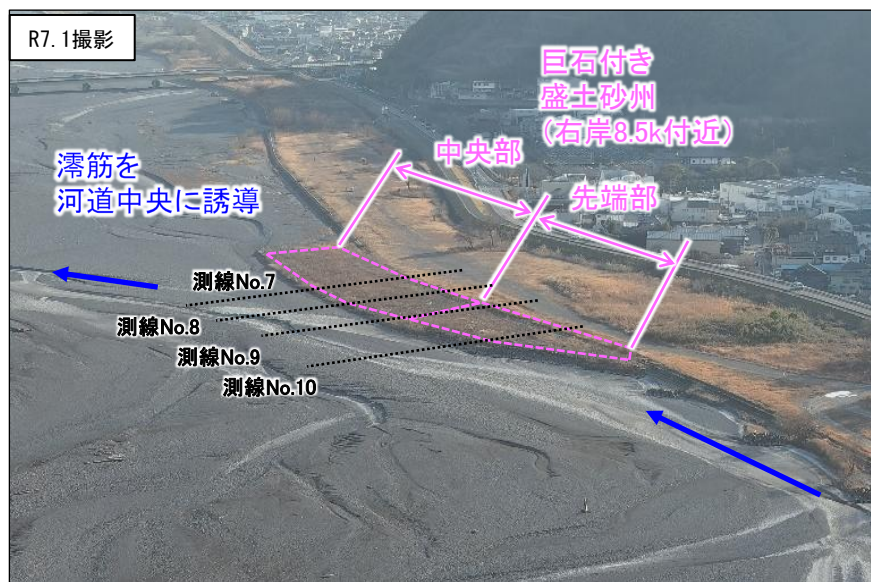
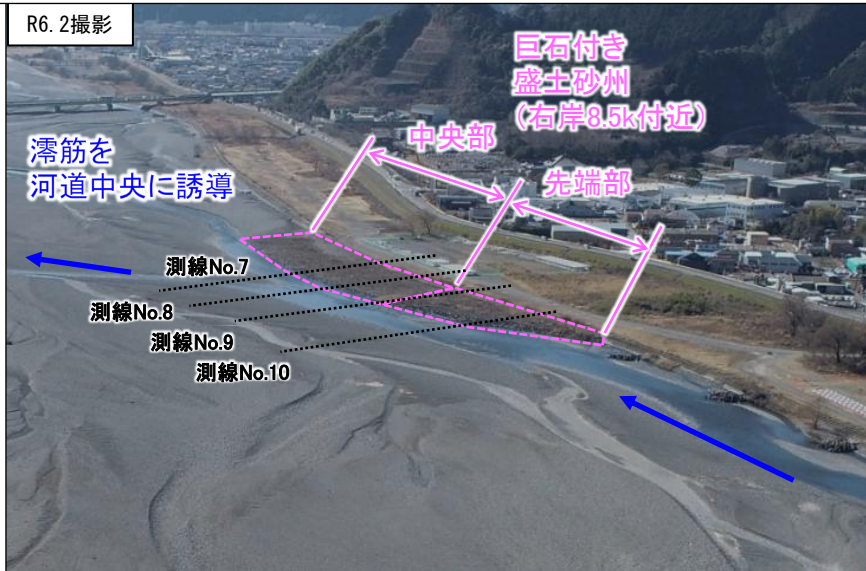


R8.2撮影

(2) モニタリング結果(令和6年度) 安倍川右岸8.5k

○【効果】: 空撮(R7.1撮影)より、滞筋が河道中央に誘導する効果が発揮されている。また、巨石付き盛土砂州の中央部を施工したことで、河岸沿いの流れが解消し、河岸防護に寄与した。

○【機能の維持】: 先端部には変状が生じておらず、巨石付き盛土砂州の機能(水はね機能)が維持されている。



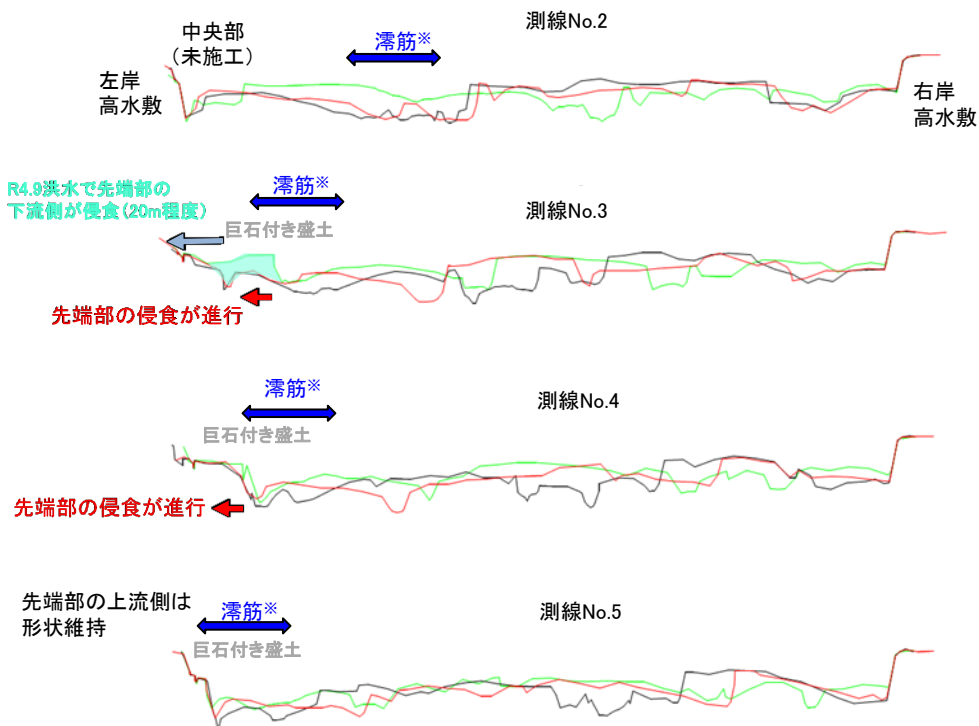
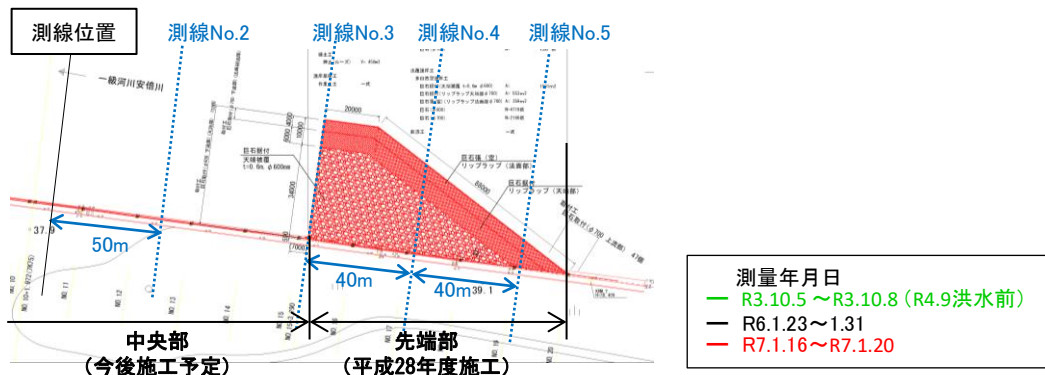
※滞筋はR7.1空撮から判別した概ねの位置

先端部の形状が維持されている

(2) モニタリング結果(令和6年度) 安倍川左岸8.0k

○【**効果**】:空撮(R7.1撮影)より、滞筋を河道中央に誘導する効果が発揮されている。

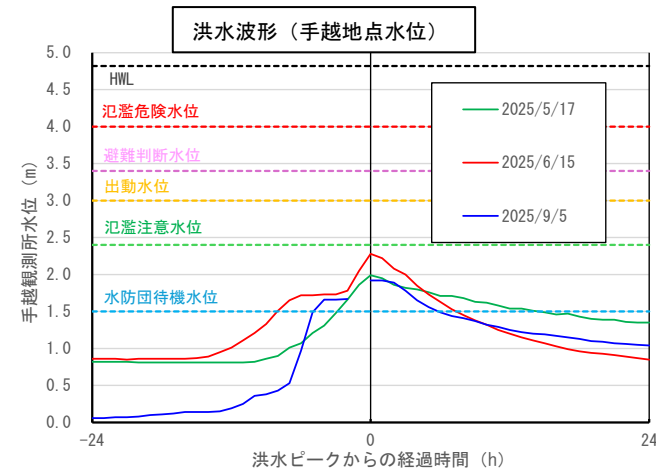
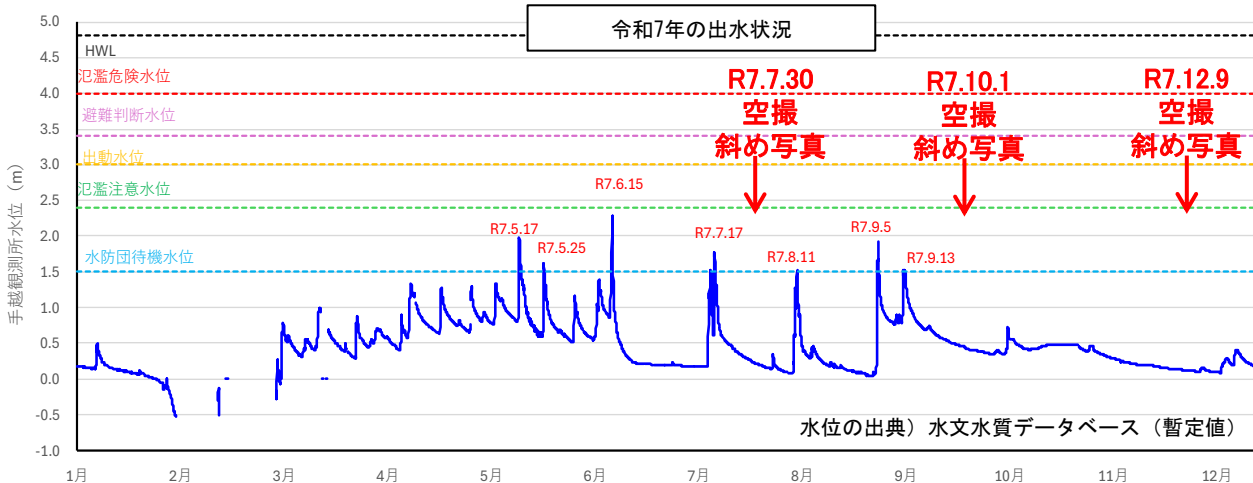
○【**機能の維持**】:令和4年9月洪水により先端部が一部侵食されており、先端部の侵食が進行した場合に、水はね機能の低下が懸念される。



※滞筋はR7.1空撮から判別した概ねの位置

(2) モニタリング結果(令和7年度)

- 令和7年には、手越観測所で氾濫注意水位を超過する洪水は発生しなかった。流量最大の洪水は、R7.6.15洪水の約822m³/s※であり、平均年最大流量以下の洪水であった。(※流量は手越水位流量観測所の令和6年暫定高水HQ式を用いて算定)
- **【効果】**: 滞筋が河道中央に誘導されている。
- **【機能の維持】**(右岸8.5k): 先端部には変状が生じておらず、巨石付き盛土砂州の機能(水はね機能)が維持されている。一方で河岸洗掘により巨石の流出と基礎の露出が確認された(R8.2撮影写真)。
- **【機能の維持】**(左岸8.0k): 令和4年9月洪水により先端部が一部侵食されており、侵食が進行した場合に水はね機能の低下が懸念される。また、中央部が施工されていないため、先端部の下流側で河岸に向かう流れや河岸沿いの流れが確認された(R7.7.30斜め写真)。



5. 安倍川緑地(田町地区)における社会実験について

(1) 安倍川緑地(田町地区)における社会実験について

- 「安倍川緑地(田町地区)」には、一級河川安倍川の河川区域内において、清流安倍川の水とふれあえる”せせらぎ”が魅力の田町親水公園や、広々としたスポーツ広場があり、隣接する堤防上には開放的な安倍川公園が立地するなど、市民の憩いの場として親しまれている。本社会実験は、静岡市が安倍川の水辺を活用して「水辺でふれあえるイベント拠点」をテーマに、地域の賑わいを生み出す取り組みを行う。この計画を「安倍川ルネサンス計画」として、「安倍川とふれあえる機会を増やし、地域の人が集まる場を作る(安倍川と市民のつながりを再生する)」ことを目指し、プロジェクトを進めている。

【社会実験の事例】

●安倍川マルシェ

ご当地グルメや地域の特産品、軽食等を提供するキッチンカー・露店が集まるマルシェを開催



わんにゃんマーケット

- 実施日: 令和7年11月22日(土)
- 内容: ペットと一緒に楽しめるマルシェ

第21回 安倍川流木クリーンまつり×安倍川マルシェ

- 実施日: 令和7年11月16日(土)
- 内容: 静河のイベントにあわせたマルシェの開催

安倍川マルシェ

- 実施日: 令和7年8月
- 夏の水遊びシーズンにマルシェを出店し、賑わいを創出

●ドープ健康フェスタ

「健康」をテーマに、屋外で体を動かすことができる教室を実施



クラフトマルシェ



トランポリン体験